



これまでもBDDNEWSやNEWSレターで取り上げて来たロヒンギャ問題ですが、8月25日、ロヒンギャ反政府組織アラカン・ロヒンギャ救世軍(ARSA)がミャンマーラカイン州の警察駐屯地や陸軍基地を襲撃したことで武力衝突が発生し、新たに多くのロヒンギャがミャンマーを脱出してバングラデシュへ逃れる事態になりました。9月22日時点で43万6千人がバングラデシュへ脱出したという記事がありますが、グラフでわかるようにその数は飛躍的に増えています。国際移住機関(IOM)は、毎日1~2万人が到着しているため、年末まで100万人に達成する可能性があるかと推定しています。

2012年の多数派仏教徒と少数派イスラム教徒の衝突による分断、2016年10月のミャンマーの警察官9人が武装集団に襲われて死亡した事件による報復など、これまですでに40~50万人ほどのロヒンギャがバングラデシュへ逃れています。そこへ新たに100万人が加わるとなれば、ロヒンギャにとってもバングラデシュにとっても大変な問題となるでしょう。

Myanmar Rohingya crisis

9月14日現在

Some 379,000 Muslim Rohingya have fled into Bangladesh since violence started on August 25: UN

Violence may have killed more than 1,000 people: UN rapporteur (Sept 8)

August 25:

Coordinated attacks on 30 police posts and an army base in the townships of Maungdaw, Buthidaung and Rathedaung EC/ECHO*

コックスバザール
Cox's Bazar
バングラデシュ
BANGLADESH

Areas affected by violence since Aug 25: EC/ECHO*
暴行被害を受けた地域

Satellite data consistent with widespread burnings between Aug 25-Sept 4
衛星写真による燃やされた場所



Source : Human Right Watch/IOM/UN/Reliefweb/ERCC/Myanmar authorities

© AFP

■ロヒンギヤを襲う不幸



【9/12Prothom Alo】

「ここでまず目にするのが、たくさんの子どもたちだ。何日も寝ていない子どもがいる。彼らは衰弱しており、空腹なのだ」
長く困難な旅を経た多くの子どもたちは心身ともにひどく傷ついている。医療が必要だ。
「これまで1128人の子どもたちが親と離ればなれになったことが確認されています。今後この数は増えると予想しています」



【9/18Prothom Alo】ここ3週間、ミャンマーからバングラデシュへやって来たロヒンギヤ難民のうち、妊娠中や授乳中の人々が7万人いると、バングラデシュ政府が伝えた。
「妊娠中の母親が多く、多くの赤ちゃんはバングラデシュ到着後に生まれました。20万人いるロヒンギヤの子どもたちは緊急支援を必要としています」

【9/20The Daily Star】ロヒンギヤの家族数百世帯がヌールさんと同じ仮設避難所で生活していた。だが、降り続く雨で近くのウキアガートカールの水位が上がって一帯が水没し、難民たちは移動を余儀なくされた。
「私は家を離れてここへ来ました。今、また家を失いました」

【9/10Prothom Alo】バングラデシュのA・H・マームード・アリ外相は10日、諸外国の外交団に対し、ミャンマーラカイン州で最近行われているロヒンギヤに対する一連の暴力行為により、これまでに約3千人が殺害されたと伝えた。



【9/13Financial Express】コックスバザール警察はナフ川からさらに7人のロヒンギヤの遺体を回収した。これにより、川を渡っている間に死亡した避難民の数は100人以上となった。

【9/14Prothom Alo】ミャンマーのラカイン州北部のロヒンギヤ集落471カ所のうち、176カ所が“全村避難”で無人になっている。それ以外の集落は部分的に放棄されたか、そのままと、ミャンマー政府スポークスマンのゾー・テイ氏は話した。



■なぜ、ロヒンギャ問題が起こるのか

18世紀以降のミャンマー及びアラカン(ラカイン州)の歴史

1785年	イスラムに寛容な仏教王朝アラカン王国、ビルマ王国（コンバウン朝）の侵略によって滅亡。以降ビルマ民族の統治が40年ほど続くが、それを嫌ったイスラム教徒や一部のラカイン仏教徒がベンガル側（現バングラデシュ+インドの一部）に避難
1824年	第一次英緬（イギリス・ビルマ）戦争開始
1826年	ビルマ王国敗戦、英国の植民地に。ベンガルにいたイスラム教徒がラカイン州に戻る。また、新たに移住する人も増える。急激な移民の流入により、とりわけ北部ラカイン州の仏教徒とイスラム教徒の共存関係壊れる
1866年	ビルマ全土が英国領に。ヒンドゥー、イスラム教問わずインド系移民が流入するが、下級労働者と移住した彼らの多くは3-4年でインドへ。一方、ラカイン州北西部に移住したイスラム教徒は定住移民として土着化。もともと住んでいた仏教徒との軋轢強まる
1940年代前半	アジア・太平洋戦争期、日本軍に武装化させられた仏教徒と英国軍に武装化させられたイスラム教徒が戦い、宗教戦争の様相に
1948年	共和制国家としてビルマが英国から完全独立。だが、ラカイン州北西部は1950年代初頭まで中央政府の力が及ばない地域として残される。その後、東パキスタン（現バングラデシュ）で食糧不足に苦しんだイスラム教徒ベンガル人がラカインに流入したことなどで、ますます仏教徒と対立。この混乱期、ラカイン北西部のイスラム教徒が総称として名乗り始めたのが「ロヒンギャ」
	この頃、一時期ではあるが、ビルマ政府はロヒンギャを自国の一民族として受け入れた。2名のイスラム教徒国会議員がいたし、ロヒンギャ語の短波放送も短時間だが許可
1962年	ビルマ国軍がクーデターで権力を奪取。「ビルマ式社会主義」で強引な中央集権化を推し進めた新政権は、ロヒンギャへ排除を強化
1966年	ナフ川を境にビルマとバングラデシュの国境確定
1970年代	迫害を受けたロヒンギャがバングラデシュへ脱出
1982年	国籍法制定。ビルマの人は国民、準国民、帰化国民の3種類に分けられるが、ロヒンギャは非国民とされ、国籍がはく奪される
1993年	バングラデシュとミャンマーがロヒンギャ送還協定に合意。合意の下、およそ23万6千人のロヒンギャがミャンマーに帰る。最終的な送還は2005年に行われ、3万3千人のロヒンギャがミャンマーへ帰国
2009年	ロヒンギャ難民が舟でマレーシアを目指したがタイ軍に拿捕。暴行を受けたうえ、エンジンを取り外した船に寄せられ公海上に放置。636人はインド沿岸警備隊やインドネシア海軍に救助されたが、数百人は行方不明のまま
2011年	ミャンマーが軍政から民政へ移行。言論の自由が認められ、一部の過激な仏教僧侶が国内のイスラム教徒を激しく攻撃するヘイトスピーチ始まる
2012年	ロヒンギャイスラム教徒と仏教徒との大規模衝突が起きて200人以上が死亡。分断状態に。多くのロヒンギャ、バングラデシュへ脱出
2016年	10月9日、武装集団の待ち伏せ攻撃を受け、ラカイン州の警察官9人死亡。分断状態の中起こった事件に対し、警察当局は犯人はロヒンギャを名乗っていたと主張。ミャンマー軍がラカイン州北部へ出動。これまでと合わせて40-50万人ほどのロヒンギャ難民がバングラデシュへ脱出
2017年	8月25日、ロヒンギャ反政府組織アラカン・ロヒンギャ救世軍（ARSA）が、ミャンマーラカイン州の警察駐屯地や陸軍基地を襲撃したことでミャンマー軍が報復。9月22日時点で43万6千人のロヒンギャが新たにバングラデシュへ脱出

ミャンマー国内の歴史をたどれば、英国による植民地化、仏教徒とイスラム教徒がそれぞれ日本軍と英国軍の代理で戦ったアジア・太平洋戦争、クーデターを成功させた軍によるロヒンギャ排除、民政移管後の一部の過激な仏教僧侶によるイスラム教徒へのヘイトスピーチなど、多数派仏教徒とイスラム教徒の対立は根深い。また、1982年の国籍法改正でロヒンギャに国籍を与えず、法解釈上、自国民ではなくベンガル人、バングラデシュ人だとしたことがロヒンギャ排除の大きな理由になっている。

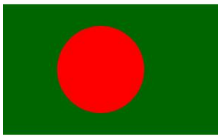
さらに、ほとんどが仏教徒でビルマ語を話すミャンマーの中で、イスラム教徒（宗教の違い）で、言葉もベンガル語チッタゴン方言（言語の違い）で、肌が黒く彫りが深い（人種の違い）ロヒンギャは自分たちと違うという感情がある。

歴史、法律、感情など複雑な要素が絡み、ミャンマー国民はロヒンギャを周縁に追いやり、出て行ってもらいたいという態度を取り続けてきた。ひとたびロヒンギャが絡んだ事件が起これば、今回のような問題はこれからも起きるだろう。歴史は変わらないし、感情は易々とは変わらない。まず、コフィ・アナン勧告にあった法律の改正を始めることが、問題解決の第一歩になるのではないだろうか。

参考引用：根本敬「ロヒンギャ問題はなぜ解決が難しいのか」「根本教授に聞くロヒンギャ問題」

■各国の対応・反応

バングラデシュ



【9/3Prothom Alo】バングラデシュ沿岸警備隊はセント・マーティン島の作戦で2千人以上のロヒンギヤを逮捕し、ミャンマーへ戻した。作戦はMd・アリ・ホサイン県令の指示に従い、夕刻から午後10時まで行われた。その後、逮捕者はトロール船に乗せられてミャンマーへ送り返された。

【9/6The Daily Star】政府は新たにミャンマーから入ってきたロヒンギヤを収容するため、コックスバザール県にキャンプを設置するとともに、ロヒンギヤのデータベースを速やかに作成することを決定した。

【9/11The Daily Star】政府は8月25日以降バングラデシュへ入ってきたロヒンギヤを特定の場所に収容し、全員を生体登録で管理することを決定した。また、難民用の臨時キャンプを設置する場所として、森林2千エーカーを割り当てた。必要に応じてさらに多くの土地が割り当てられる。

【9/12Financial Express】バングラデシュ南東部の難民キャンプを訪れたシェイク・ハシナ首相は、ミャンマーに対し、ロヒンギヤへの暴力をやめるよう呼びかけた。

【9/12The Daily Star】シェイク・ハシナ首相はバングラデシュは人道的な理由でミャンマー避難民に避難所を与えているが、それは永遠ではないと話した。

【9/18Financial Express】政府はコックス・バザールのロヒンギヤ難民に食事を提供するため、8カ所の無料炊事場を設置する。

【9/19Prothom Alo】バングラデシュはロヒンギヤ問題に対する自身の立ち位置を強調し、ミャンマーラカイン州内の被害区域を“安全地帯”として宣言してロヒンギヤが戻れるようにすべきだとした。また、コフィ・アナン報告を歓迎し、勧告内容の実施を次の一步にすべきだとした。

【9/20Prothom Alo】ロヒンギヤ難民の支援として、バングラデシュは国内外の機関から270トンの食糧を受け取った。政府はさらに500トンを拠出する。衛生工学局は各キャンプに1万4千本の飲料水を提供する。災害対策相は管井戸100基とトイレ500カ所を設置したと補足した。加えて、8時間ごとに6万4千リットルを供給することができる移動式水処理プラントが導入された。

インドネシア



【9/5Prothom Alo】インドネシアはラカイン州の平和を回復し、人道援助への即時

アクセスを可能にする“フォーミュラ4+1”と呼ぶ提案をミャンマー側に提出した。提案には、(i)安定性と安全保障の回復、(ii)最大限の自制と非暴力、(iii)人種や宗教にかかわらずラカイン州のすべての人に対する保護(iv)人道援助への即時アクセスの重要性の4要素が含まれる。+1はアナン勧告。

イラン



【9/13Prothom Alo】「ロヒンギヤムスリム(イスラム教徒)に対するミャンマーの弾圧は”ノーベル平和賞の死”という傷跡を残すでしょう。

残酷な政府のトップに、ノーベル賞を受賞した残酷な女性が座り、無辜の民を殺し、放火し、家を壊し、置き去りにし、それでも具体的な反応はありません」

イランの最高指導者アリー・ハーメネイー師はテヘランで演説し、アウンサンスーチー氏を強く批判した。

スウェーデン



英国



【9/12The Daily Star】スウェーデンと英国は、仏教徒が大半を占めるミャンマー国内のイスラム教徒ロヒンギヤの“悪化している状況”に関して、国連安全保障理事会を開くよう要請した。

インド



【9/19The Daily Star】インド政府は18日、最高裁判所に対し、ロヒンギヤムスリムの一部がパキスタン軍統合情報局(ISI)やテロリスト

集団イスラミックステート(IS)と繋がり、“国に対する治安上の重大な脅威”になっているとの知らせを情報機関から受けとったと伝えた。

ミャンマー



【9/19Financial Express】ミャンマーの事実上のリーダーアウン・サン・スー・チー氏は、バングラデシュへ脱出した難民のうち、“確認された”者を歓迎する用意があると話した。

「いつでも確認プロセスが始められるよう準備しています」

今回、ラカイン州で軍の弾圧が始まってから初めて演説だった。

日本



【9/20朝日新聞】少数派イスラム教徒ロヒンギャの難民問題で、米ニューヨークを訪問中の河野太郎外相は19日夜(日本時間20日午前)、日本政府が最大約400万ドルの緊急支援を行うと記者団に明らかにした。

河野氏は「治安部隊に対する武装勢力による襲撃行為を強く非難し、現地の人権人道状況に深刻な懸念をもっている」と強調。ミャンマーや難民を受け入れているバングラデシュ政府に対し、近日中に支援を行う方針を示した。約400万ドルは水や衛生用品、シェルターなどにあてられる。また、堀井巖外務政務官を21日からミャンマーに派遣し、現地の状況を確認させるという。

■各機関・団体などの対応・反応



【9/11Prothom Alo】国連の人権担当者は11日、ミャンマーが少数派ロヒンギャに行っている明らかな“組織的攻撃”を

批判し、“民族浄化”が行われているように見えると警鐘を鳴らした。

「ミャンマーが人権調査団のアクセスを拒否したため現状を完全には評価できていませんが、この状況は民族浄化の典型的な例に見えます」

ザイド・ラダル・アル＝フセイン氏は国連人権理事会で話した。



【9/11Prothom Alo】ダライマ氏はアウンサンスーチー氏にミャンマーの危機に対する平和的解決策を見つけることを訴えた。また、仏教徒が大

多数を占めるミャンマー国内の暴力から、約30万人のイスラム教徒ロヒンギャが逃れたことに懸念を表明した。

「私はあなたとあなたの仲間の指導者に、社会のすべての部分に手を差し伸べて、平和と和解の精神で国民全体の友好関係を回復させるよう呼びかけます」



【9/12The Daily Star】モウルビバザール県クラウラ郡アミル・サルフ政府小学校の生徒たちはロヒンギャ難

民の子どもたちの苦境に触れ、その苦しみを和らげるため、少しでも自分たちができることをやろうと、昼食代を節約して募金活動を始めた。



【9/14Prothom Alo】ムハンマド・ユヌス氏など12人のノーベル賞受賞者と17人の世界的な著名人は、ミャンマーのラカイン州で起きている人道危機を終わらせるため、国連安全保障理事会による迅速な介入を求めた。



【9/14Financial Express】水曜日、ダッカ駐在の外交団がコックスバザールにあるロヒンギャ避難所を訪れた。30カ国の大使や高等弁務官を含む63人の代表団が、クトゥパロングやボルカリのロヒンギャキャンプを訪れ、避難民たちと対話した。

■ 援助機関の連絡先

◇ 国連UNHCR(難民高等弁務官事務所)

<https://www.japanforunhcr.org/lp/rohingya?type=single>

◇ 国境なき医師団

http://www.msf.or.jp/news/detail/headline_3541.html

◇ unicef(ユニセフ: 国連児童基金)

http://www.unicef.or.jp/kinkyu/rohingya/?utm_source=googlea&utm_medium=cpc&utm_campaign=rohingya

◇ チャリティーライト

<https://charityright.org.uk/posts/news/bangladesh/>



9月18日以降、悪天候とラカイン州の暴力が弱まったことで、ロヒンギャのバングラデシュ流入は一旦減速しました。しかし、24日頃から、これまで軍が駐留していたため逃げられなかった国境から離れた場所に住むロヒンギャが、再びバングラデシュへ逃げて来るようになります。新たに到着したロヒンギャ難民のアミル・ハキムさんによると、ミャンマー側では国境を渡るため、2万人ほどの人が待機しているといえます。

そう簡単には終わりが見えないロヒンギャ問題ですが、8月25日の事件から一カ月を機に、その歴史的背景や世界の対応などを入門書的に取り上げる必要があると思います。ロヒンギャ問題が少しでも解決に向かうことを願っています。

株式会社マーフィーシステムズ BDDNews係 〒930-0005富山県富山市新桜町5-11

TEL:076-411-9488 FAX:076-411-9766 E-mail:bdd@murphy.co.jp